学校通信（平成２８年度）
しんめい
第１１号
平成２８年７月８日
桐生市立神明小学校〔文責：佐野〕
桐生市広沢町２－３２４２－１

学校評議員会開かれる

６月２７日（月）、ご多用の中、４名の学校評議員さんに来校していただき、第１回の学校評議員会を開きました。

学校評議員とは、学校の教育活動の計画・実施、地域との連携の進め方等、学校運営についてご意見・ご助言をいただくために、校長が推薦し、桐生市教育委員会が委嘱する方方です。学校によって、人数は異なりますが、本校では平成１３年から４名の学校評議員さんが委嘱されております。今年度のメンバーは、第１２区長丹羽康博さん、広沢１丁目自治会長津久井進さん、桜木公民館長阿久沢博幸さん、主任児童委員橋本恵一さんです。

当日は、各教室の授業を参観していただいた後、今年度の学校経営について校長が説明し、いろいろと貴重なご意見をいただきました。

「地域から愛される学校」を目指し、学校評議員の皆様から頂戴したご意見を生かしながら、今後も学校経営に取り組んで参りたいと思います。

1学期指導主事訪問～指導力向上に向けて

６月３０日（木）に、桐生市教育委員会から、新保教育研究所所長補佐と学校教育課糸井指導主事を指導助言者に迎え、授業研究会を行いました。

今回の授業研究会は、今年度の学校経営の努力点「授業公開を積極的に行う中での授業力の向上」「基礎基本の徹底と言語活動の充実」「個に応じたきめ細かな指導の工夫や授業の改善・充実」につながるものです。

研究授業は、６年１組で行われましたが、その他４年１組、５年１組、あおぞら学級、そして音楽専科の音楽と理科専科の理科の授業も公開され、教職員で授業を参観し合いました。そして、放課後指導助言者を交え全教職員で授業づくりについて討議いたしました。

授業力を高め、児童に「勉強が分かった」、「もっと勉強したい」という思いを抱かせることは、教師の使命であります。また、このことは、学校づくりの柱の一つである「たのしい学校」につながります。今後も、本校教職員全体で、教師としての能力向上に向けて、日々研鑽に努めていきたいと思います。

命を守る教育～交通安全教室

６月２８日（火）に、交通安全教室を行いました。この交通安全教室は、「正しい歩行の仕方や、自転車の安全な乗り方について理解させ、交通安全に対する態度や能力を育てる」ことを目的に毎年行われるものです。

昨年、桐生市では１６件の小学生の事故があり、そのうちの１０件は登下校中に事故に遭ってしまったそうです。そこで、校長の話の中で、「今日の学習は、自分の命を守る大切な学習です。神明小学校では、ここ何年か事故に遭った児童は幸いおりませんが、いつ事故に遭うか分かりません。絶対に事故に遭わないように真剣に学習してください。」と話しました。

当日は、残念ながら雨天になってしまったため、予定していた低学年による学校周辺の歩行訓練と、中・高学年による校庭にかいた模擬道路での自転車乗車訓練は行うことはできませんでした。しかし、体育館を会場に、桐生警察署交通課署員さん、桐生市役所所属交通ヘルパーさん、神明地区交通指導員さんに、低学年は大型布芝居で正しい歩行の仕方を教わり、中・高学年は自転車の乗り方や点検の仕方を教わりました。本日の学習を生かし、これからもずっと神明小学校の児童が事故に遭わないことを願っています。

本校では、赤川龍雄さん、山藤勇夫さん、須齋俊生さん、南雲英男さん、塚本　昇さんの５名の交通指導員さんに、登校の際に、交通指導をしていただいております。

＊＊＊

4年生、認知症サポーター養成講座に参加　6月27日（月）

「地域包括支援センター神明」より、楡井さんと春山さんに来校していただき、４年生が、認知症サポーター養成講座に参加しました。

まずはじめに、学校の西にある「地域包括センターとは？」の説明を受けました。

地域包括センターというのは、「介護や医療のことで、どこに相談していいか分からない場合に、福祉や医療・介護保険の専門職が常駐し、相談にのって答えてくれる場」だそうです。お年寄りの介護等でお困りの方は、ご利用なさると便利な施設かと思います。

講座の中で、４年生の児童は、身近な人が認知症にかかってしまった場合、その人の気持ちに寄り添って自分のできる範囲で助けてあげるということを学びました。「認知症サポーター」というのは、実際には難しいことかもしれませんが、子どものうちから基本的な知識を学び、いざというときにそれが生かせるとよいかなと思います。